

創立73周年  
令和5年度 7月号



# 咲かせよう大正の花

## つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



### 繰り返す理由

園長 北村 恵

乳幼児が同じことを繰り返す姿を、保護者の方は幾度となく目にしたことがあるのではないのでしょうか。赤ちゃんの時、ティッシュを箱から出なくなるまで、出し続けたり(しかもそれは1度では済まず、何度も繰り返されたり)トイレットペーパーをすべて引っ張られたり。同じ絵本を何度も「読んで」とせがまれることもあったでしょう。どうして子供は、同じことを何度でも繰り返すのでしょうか。そして、どうやってそれは終わるのでしょ

うさぎ組のAちゃんとBちゃんが、砂場で裸足になって遊んでいました。偶然砂場に、山を作るために掘った穴があったのを見付け、Aちゃんがそこにバケツで水を入れました。それをみていたBちゃんも同じことをしました。何度か水を運ぶと、大きな水たまりができたので二人は嬉しそうにバシャバシャと足を入れました。そのうちに水が砂に吸い込まれてなくなってしまったことに気付き、またバケツに水をいっぱいに入れて運び始めました。「重たい！」と言いつつも笑顔です。「片付け」の声がかかるまで、同じことを繰り返し楽しんでいました。

ぱんだ組のC君とD君が保育室に作ってある巧技台の滑り台を滑っていました。最初は二人で順番に滑っていましたが、途中からC君が棒を持ってきて、D君が滑るときに踏切のように動かし始めました。D君は踏切の合図で止まったり、時には素早く通り過ぎたりして、笑いながら楽しんでいました。それを見ていた3歳児うさぎ組の子供たちも「入れて」とやって来ると、今度はD君も棒を持ってきて二人で踏切を動かししました。二人は、うさぎ組の子供たちが次々とやってきても、うさぎ組の子供たちのタイミングに合わせて、踏切を繰り返し動かしていました。

先日、ぞう組が収穫した人参、玉ねぎ、じゃがいもを使い、カレーを作りました。ぞう組が、野菜を洗い、玉ねぎの皮をむいて、人参とじゃがいもを包丁で切りました。初めて体験する子供は、緊張しながら包丁を握っていました。思っていたより早く終わってしまったようで「もっと切りたい！もう一回やる！」という声が多く聞かれました。楽しさや、やり遂げた充実感を感じていたからだと思います。

このように、繰り返すという行為には「楽しい！」「もっとやりたい！」という、意欲が不可欠です。そして、繰り返しているうちに、自然に「もっと水を貯めたい」「もっと楽しくしたい」「もっと上手に切りたい」などの自分なりの目あてが生まれてくるのです。さらに、その目あてに向かって繰り返す中で、試したり工夫したり、疑問をもったり考えたりするようになります。繰り返す行為の1回1回が、子供にとって大切な学びなのです。自分なりに十分に試して満足すると、次の遊びへ移行していきます。幼稚園では、繰り返しやってみたいと思えるような環境や教材を用意すると共に、試したり工夫したりする楽しさや試行錯誤する姿を支え、やり遂げた満足感を味わわせたいと考えています。